

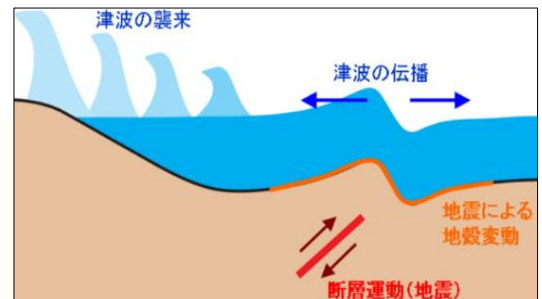
第40回「津波について」

読者の皆様、こんにちは。航空気象群ホームページ「気象の社」にお越しいただきありがとうございます。今回は、築城気象隊から皆様の暮らしの中で大きな危険となる「津波」をテーマにお送りします。

○津波はどのような仕組みで起きるのか？

地の表面のプレートどうしがぶつかったりすれ違ったりすることで地面が持ち上げられたり押し下げられたりします。これが地震です。

この地震が海域で発生し、震源が浅いところにあると海底面の上下の変化は、海底から海面までの海水全体を動かし、海面も上下に変化します。このようにもたらされた海水の変化が周りに波として広がっていく現象のことを「津波」といいます。スケールが大きく理解し

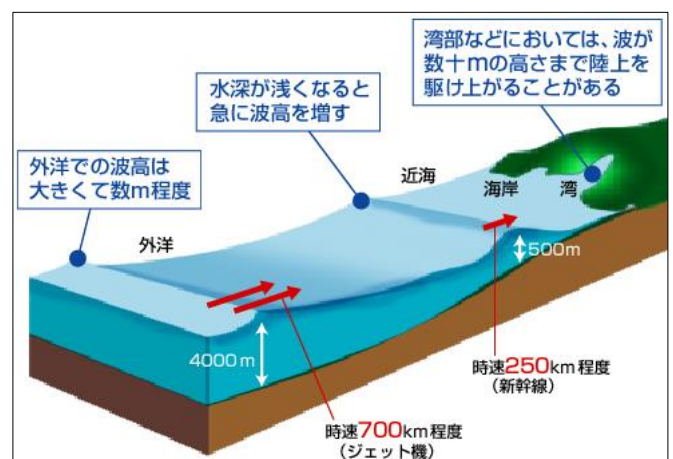


づらいですが、私たちの日常生活の中の何気ない行動の中にもこの仕組みがあります。私たちは飲み物の入ったコップを机に置くとき、ゆっくりと置きます。それはコップを強く置くと下から圧力がかかり、中身がこぼれることを知っているからです。津波の仕組みはこれと似ていますよね。

○津波はどのような仕組みで海岸に到達するのか？

津波は水深の深いところでは波の進行速度は速いながらも、波高はあまり高くなりません。波が水深の浅い近海まで到達すると、速度は遅くなり、波高は高くなります。

ここで大事なことは、私たちは遠くに見える波高がまだ高くない津波を脅威と感ずることが難しいにもかかわらず数刻後には波高が増して大きな被害に繋がる可能性があるということです。また沿岸に打ち寄せた波は陸上に駆け上がることもあれば河川を遡上することもあり海岸から離れた場所においても被害を及ぼすことがあります。





○津波がきたらどのくらいの被害が発生するのか？

過去に発生した津波被害と津波の高さの関係から、家屋被害については建築方法によっても異なりますが、木造家屋では浸水1m程度から部分破壊を起こし始め、2mで全面破壊に至ります。また、浸水が1mに満たない場合であっても、健康な成人男性でも流され、車も浮き、浸水被害が発生する可能性が十分あります。

津波波高(m)	1	2	4	8	16	32
木造家屋	部分的破壊	全面破壊				
石造家屋	持ちこたえる			全面破壊		
鉄筋コンクリートビル	持ちこたえる				全面破壊	
漁船		被害発生	被害率50%	被害率100%		

○津波から身を守るためには？

強い揺れを感じたときは、直ちに安全を確保し、海岸から離れた高台などの安全な場所に避難しましょう。気象庁が発表する津波に関する警報等の必要な情報は、テレビやスマートフォンを使って見ることができます。気象庁が発表する警報等が津波注意報であっても、1メートルを超える波が打ち寄せる場合もあるため油断は禁物です。

本年7月30日、カムチャツカ半島付近を震源とする地震の影響による津波が予想され、津波注意報及び津波警報が発表されました。報道では多くの方々が声を掛け合い、速やかに海岸から離れる防災意識の高さが映し出されました。宮崎県、高知県に発表された前回の津波注意報から約半年が経過しているにもかかわらず、身を守る行動を最優先にとれることは素晴らしいことであると私は感じました。

気象庁が発表する警報等	
大津波警報	予想波高 3m 超え
津波警報	予想波高 1m～3m
津波注意報	予想波高 0.2m～1m

最後に今回「津波」についてお話させていただきましたが、津波を含めて自然現象を予想するのは難しく、自然現象のひとつである気象も同様です。このため気象情報の確認の際は、いつの情報なのかを必ず確認してください。最新の情報を活用して頂き、皆様の暮らしがより安全になることを心より願っております。

出典：国土交通省ホームページ
気象庁ホームページ